

所外研修②「子ども読書の日 記念フォーラム」

4月23日(木)に前期教育研究員5名は、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるにはどうしたらよいかを学び、今後の実践に活かすことを目的として、沖縄県教育委員会の主催する「平成27年度沖縄県『子ども読書の日』記念フォーラム」に所外研修として参加しました。

【フォーラムの概要】

- 1 開会のあいさつ 沖縄県教育委員会 教育長 諸見里明
 - 2 行政説明
 - (1) 第三次子どもの読書活動推進計画の概要
 - 第二次推進計画の課題→量から質へ
 - 方針→読書の質の向上・自主的な読書活動の推進
 - EETプラン→Ear(きく)・Eye(読む)・Talk(伝える)
五感に響かせる
 - 県教育委員会の取組→読書の日フォーラム・文字・活字文化の日
 - 家庭における取組→家読書・ファミリー読書
 - 市町村での取組→公立図書館の活用
 - (2) 沖縄県立図書館 子ども読書活動推進室
 - 読み聞かせ資料の貸出→パネルシアター・大型絵本・大型紙芝居
 - ボランティア活動→ミニイベント開催・学習会・情報交換会
 - 3 講演 「読書への誘い～語りの世界～」
講師：沖縄国際大学非常勤講師 田名洋子 氏
 - 4 実演 (平成26年度教育長表彰団体)
 - 与那原町児童文化部 ○おはなしボランティアシークレーサー
 - 5 閉会のあいさつ 沖縄県教育庁生涯学習振興課長 平良朝治
- ※パネル展示(平成26年度教育長表彰校及び図書館)
- 県立豊見城南高等学校 ○南城市立図書館 佐敷分館



写真1 読書フォーラムの会場にて



写真2 実演の様子①



写真3 実演の様子②

教育研究員の感想 (研修日誌から)

所外研修で記念フォーラムに参加させていただきました。行政説明では、子どもの読書活動を推進していくための計画の概要を知ることができ、地域、学校、家庭が一体となって取り組んでいくことの大切さを学びました。講演では、読み聞かせや語りの魅力についてのお話を聞くことができました。田名先生の語りがとても心地よく、この耳に残るぬくもりこそ、子どもの心の中に蓄積されていく愛情なのではないかと感じました。また、物語の世界に思わず引き込まれるような、間の取り方、話すスピード、声のトーンなど、毎日の保育で読み聞かせを取り入れている幼稚園で実践する上でとても参考になりました。田名先生が接している学生の感想から、「読み聞かせ＝愛情ではないか。限られた親子の時間の中で質の良い時間を過ごすために読み聞かせは大切であると感じた」とありましたが、教師であると同時に母親としてもとても心に残った言葉でした。日々の忙しさに流されることもありましたが、子どもの心を豊かに育み、触れ合いのひとときとなる読み聞かせタイムを大切にしようと改めて思いました。

(金城さくら)

講演の中で田名さんは「聞く力は読む力より優れている」と言っていました。私たちの授業においても「聞く」「聴く」というのはとても大切なことだと感じています。児童に「聞く」から考えさせながら「聴く」へもっていくために、私たち教師は、発問や導入を工夫し、児童に考えさせること必要だと感じました。

大人になって読み聞かせを聞いてみて、ほのぼのといい気分になりました。読み聞かせて大人にとっても必要なのかなと感じました。読み聞かせが子どもの感性をくすぐり、共感を生む。絵本にはそんな不思議な力があるんだと思います。今回の研修では読み手に引き込まれるような印象を受け自然と絵本の世界へ導かれたように感じました。それが、心地よい気持ちにさせてくれたのだと思います。（大城厚）

私も学級の児童に読書への関心を持たせることが課題です。本来は児童自ら意欲的に読書をすることが理想でしょう。しかし、本の「楽しさ」を味わったことのない子どもたちにとっては、やらされ感があり、また活字を追いかけるという苦手意識が先行してしまうのでしょうか。田名先生曰く、「目で読む楽しさが身につけていない子には、まず耳から入る読み聞かせ等のEET（Eye、Ear、Talk）活動が有効だ」ということでした。田名先生による語り（おはなし）や与那原町児童文化部とおはなしボランティアシークワサーによる読み聞かせの実演は、大人の私にとってもワクワクし、想像力をかき立てられるものでした。私も、子どもの頃、母から毎日寝る前に読み聞かせをしてもらっていたことを思い出しました。忙しい中でも、少しでも触れ合いを…という思いだったそうです。今後は、さらに私たち大人が、子どもと本をつなぐかけ橋にならなければと痛感しています。学校現場でも、もっともっとEET活動を取り入れていきたいです。（長門照乃）

教育長と生涯学習振興課課長のどちらのあいさつにも「主体的に読書に親しむ環境作り」という言葉があり、「主体性」「環境作り」の2つは教育のどの場面でも欠かせない要素だと思いました。また、「五感に響かせるE・E・Tプラン」の「E・E・T」の意味が「本を耳・目で読み、口で伝える」と聞いた時、これはまさに読み聞かせじゃないかと思いました。私の学校でも月に2～3回、読み聞かせがあります。子どもたちは、その時になるとどんな子でも、静かに一生懸命話を聞きます。この体験が見る・聞く力に繋がり、子どもたちの心を耕しているのだと思いました。学校に戻ったら、私も読み聞かせを子どもたちに行き、五感に響かせてみたいと思います。

また、実演を行った与那原町児童文化部には、国語学習ノートの編集でお世話になった先生や以前勤務した与那原東小学校でお世話になった方もいて、とても懐かしい気持ちになりました。読み聞かせをしているのは知っていましたが、方言劇まで活動の場を広げているそのバイタリティーには驚きました。その先生から、励ましの言葉を頂いたので、改めて頑張ろうという気持ちになりました。

（具志堅智美）

沖縄県で「第三次子どもの読書活動推進計画」というものがあり、今までの課題をうけ今年の方針・EETプランなど、知らないことがたくさん分かりました。この計画の中で、家庭での取組は、自分が家庭に帰ったときにさっそく実行していきたいです。また、「読み聞かせ」だけでなく、「お話し」をしてあげることが子どもの発想を豊かにするので、我が子で試してみたいと思いました。

講演では、聞く力の育成が重要だと感じました。聞くことで言葉を覚え、言葉を知ること、認識できる世界が広がるということなので、言葉を正しく教えていきたいです。また、普段あまりテレビを見ないのですが、聞き取りにくい人のためのテロップが「耳で聞く」ことの妨げになり、「目で聞く」ことに偏ってしまっていることが分かり、「目」より「耳」に意識をおいてテレビを見ていこうと思います。

学校現場に戻ったら、五感で聞くことを意識させられるようにしていこうと思います。（古屋誠一）